

わたしの本棚シリーズ *you can know a man by the books he keeps in his library.*

向井先生（国語）の本棚

本の紹介



『漢詩一美の在りかー』『新唐詩選』

大学の卒論作成の際にお世話になった二冊。高校の時は漢詩なんて全く興味がなかった私ですが、大学で漢文学の教授の授業を受けて漢詩の面白さに気づくことができました。みなさんもどこかで新たな学問との出会いがあるかもしれません。

『弓と禅』

弓道という武道を通して日本の禅の精神を外国人の目線から分析しています。著者自身が深く弓道に向き合っていることが感じられる内容です。

『弘中綾香の純度 100%』

写真集かとおもいきや、しっかりとエッセイになっており読み応え抜群です。特に高校の先生との思い出話がお気に入りです。

『フォルトウナの瞳』

もうすぐ死んでしまう人を予知してしまう主人公が、愛する人を守るためにどんな行動にでるのか、最後までページをめくる手が止まらない展開です。

『ももこの話』

とにかく面白くてほっこりするお話ばかりで、一つのお話も短いので読みやすいです。疲れた時にも和みますのでぜひ一読を。

『そしてバトンは渡された』

それぞれがそれぞれを思う気持ちが交差して、時には響き合って涙なしには読めない作品です。

『夢十夜を十夜で』

教科書にも載っている「夢十夜」という作品を10回の講義で解説するという内容。こんな面白い授業がしたいなあと常に思っています。

『恋する伊勢物語』

俵万智さんのすばらしい分析と共感を呼ぶ表現で解説されると、ああなるほどと思わず言ってしまいそうになります。

『教えるということ』

教員になることが決まって、自分の道しるべにしたいと思い読んだ一冊。「教える」ということの意味を改めて考えました。常に試行錯誤し、自分も学び続けてこそ子どもたちに学びを提供できる。教職を目指している人には必読です。迷ったときは戻ってきたいと思います。